

大きく変貌を遂げ、拡大・進化する虎ノ門・新橋エリア

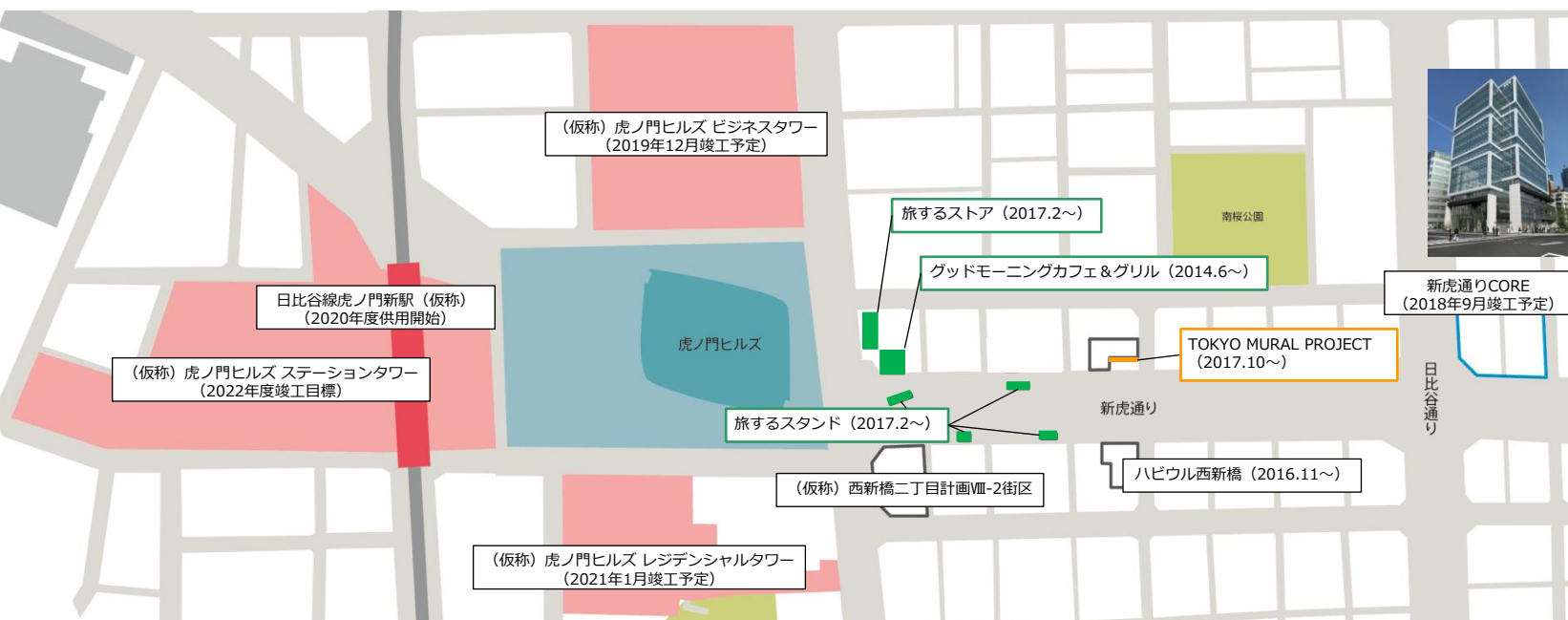
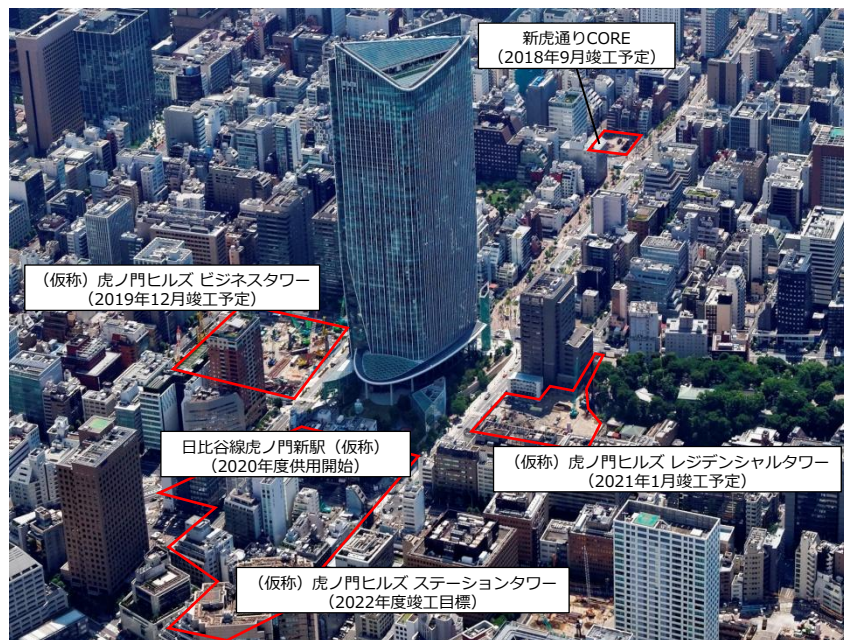
- 2017年12月に「新虎通りCORE」が上棟するなど、虎ノ門・新橋エリアは国際新都心の形成に向けた都市づくりが加速し、大きく生まれ変わろうとしています。
- 「新虎通り」沿道のまちづくり活動を推進する「一般社団法人新虎通りエリアマネジメント」は、10月に都市再生特別措置法に基づく都市再生推進法人に指定されました。さらに、「新虎通り」では国家戦略特区道路占用事業の適用等に向けた社会実験として、道路を使った様々なイベントを開催中です。
- 2017年2月より「旅する新虎マーケット」がスタートし、エリアのにぎわい醸成とともに、新虎通りを日本文化のショーケースとして、日本各地の魅力を世界に発信。10月には「新虎通り」沿道のビル壁面に巨大なアート作品を描く「TOKYO MURAL PROJECT」がスタート。多様な人々が出会い、新しいアイデアが創発される場づくりを目指しています。

「国際新都心・グローバルビジネスセンター」形成に向けた都市づくりを加速

2014年に誕生した「虎ノ門ヒルズ 森タワー」は、立体道路制度を活用して環状2号線と一体的に建築した、官民連携による象徴的なプロジェクト。現在、この隣接地で新たに3つのプロジェクトを推進し、日比谷線虎ノ門新駅（仮称）を含む一体的な都市づくりを加速させています。

2017年2月に着工した「（仮称）虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー」、2017年3月に着工した「（仮称）虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー」、そして新駅と一体開発する「（仮称）虎ノ門ヒルズ ステーションタワー」、これら3棟が新たに加わり、「虎ノ門ヒルズ」は区域面積7.5ha、延床面積80万㎡に拡大。虎ノ門ヒルズは、国際水準のオフィスや住宅、ホテル、商業施設など様々な機能を備え、道路や鉄道などの交通インフラとも一体となった真の国際新都心へと進化します。

また、2017年12月には、「新虎通り」における沿道開発のモデル事業である「新虎通りCORE」が上棟。通りの核（=CORE）となる沿道開発のモデル事業として、街並みづくりを牽引し、新虎通り沿道のにぎわいづくりの拠点となることで、「国際新都心・グローバルビジネスセンター」を目指す虎ノ門・新橋エリアの進化・発展に貢献します。



新虎通りの賑わい形成に向けて、様々なイベント・社会実験を実施中

・東北六魂祭パレード(2016年11月)

新橋・虎ノ門エリアを舞台に東京・日本の持つ文化の魅力を世界に向けてプレゼンテーションする試み。「新虎通り」、「虎ノ門ヒルズ」、「港区立南桜公園」を会場として、東日本大震災から立ち上がった東北の姿、世界に誇る日本の文化を発信。



・旅する新虎マーケット(2017年2月~)

「新虎通り」を舞台に、日本全国津々浦々の「ヒト」「モノ」「コト」の魅力を編集、発信し、地方創生へ繋げる「The Japan Connect」を目的としたプロジェクト。2017年10月からは、第三章として「風爽かの寄舎」と題し、6つの自治体工芸品や食文化を紹介。



・TOKYO MURAL PROJECT(2017年10月~)

多様な人々が出会い、新しいアイデアが創発される場を目指す。「新虎通り」沿道の既存ビルの壁面にアート作品（ミュラル）を描くプロジェクトを、海外企業の日本進出を支援するアンカスター株式会社、Makeshift株式会社、BnA株式会社と共同で企画。エリアにさらなる賑わいを創出。

